

令和元年度（2019年度）行政評価シート【個表】

令和元年7月5日

評価対象事業		評価者	市民健康課長 菊池 隆	
健福-45	実施事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	主管課	市民健康課
	まち・ひと・しごと		関連課	
総合計画上の位置付け	分野	健康福祉	施策の方針	市民の健康と安心づくりの推進

1 事業の目的

対象	市民等
意図	食を通して市民の健康の維持増進を図るため。
効果	市民の健康に対する意識が高まり、自分から進んで健康の維持増進のための行動をとることができる。

2 平成30年度(2018年度)に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・食育活動を推進するボランティアを育成するとともに、既に活動している団体と連携を図りながら地域での食育を推進した。 ・「食」に関して、広く情報提供を行い市民への啓発を図った。 ・市民、生産者・流通業者、関連団体等が交流する場を提供し、全市民的な食育の推進に努めた。

3 事業費等基礎データ

データ区分	29年度(2017年度)決算		30年度(2018年度)決算		01年度(2019年度)当初予算		備考
	人口等のデータ	人口	176,466人	176,308人	人口	176,436人	
	世帯数	81,150世帯	81,763世帯	世帯数	82,444世帯		
運営資源状況	事業の対象者数			事業の対象者数			
	決算値(千円)	612	714	当初予算(千円)	758		
	国県支出金	0	0	国県支出金	0		
	地方債	0	0	地方債	0		
	その他	0	0	その他	0		
	一般財源	612	714	一般財源	758		
事業経費運営	人員配置数	0.8	0.8	人員配置数	0.8		
	人件費(千円)	6,185	6,305	人件費(千円)	6,207		
	総事業費(千円)	6,797	7,019	総事業費(千円)	6,965		
	市民1人当りの経費(円)	39	40	市民1人当りの経費(円)	39		
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)			

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	2. 廃止・休止による影響は小さいがある
	今後も市が実施すべき事業か	5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
有効性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公平性	受益者負担は公正・公平か	○-2. 適正な受益者負担を導入している
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△-1. 今後、市民等との協働による事業実施に向けた検討が必要である
		△. 協働未実施 協働実施済の場合のパートナー

事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す → <input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする <input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する <input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する →	見直しの種類	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他	見直しの内容	
	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	講座・イベント等については、引き続き事業所等と連携することで、実施を図っていく。今後は第3期鎌倉食育推進計画の概要版を配付をしながら、ホームページ等の活用等で、計画の推進を図っていく。			

総評(評価に対する考え方、根拠等)	第3期鎌倉食育推進計画を策定したことから、指標の達成に向けた周知及び啓発を行っていく。
-------------------	---------------------------------------------

平成30年度(2018年度)事業実施にあつての課題(前年度未解決の事項を含む)	第3期鎌倉食育推進計画の推進及び周知を図る。食育推進計画の位置づけや、連携、推進方法等について、健康づくり計画の食生活の部分と整理していく必要がある。周知についてはSNS等を上手く活用しながら進めていく。	
課題解決のために行った平成30年度(2019年度)の取組	関心が低い青壮年期も食行動の変容につながるように、できるだけ具体的な取組み方法を提示した。健康づくり計画と重複する部分の推進方法や計画の進行管理等について検討を行ったが、解決には至っていない。	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	引き続き、第3期鎌倉食育推進計画の推進及び周知を図る。食育推進計画と、健康づくり計画の食生活の部分は、整合性をはかりながら両面から進めているが、重複する部分が多いことから、計画の一本化を視野に置いて検討していく。周知についてはSNS等を上手く活用しながら進めていく。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	食育推進計画と健康増進計画とを統合している近隣市町								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	逗子市	横須賀市	平塚市	葉山町		
他市実績	×	×	×	×	○	×	○		

比較事項	SNS(ツイッター、ライン等)で食育の周知をしている近隣市町								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	逗子市	横須賀市	平塚市	葉山町	大和市	横浜市
他市実績	○	×	○	×	○	×	×	○	○

比較事項	管理栄養士の配置状況<平成30年度・健康増進主管課常勤栄養士数>上段は人数、下段は管理栄養士一人あたり住民数								
団体名	鎌倉市	逗子市	厚木市	平塚市	大和市	座間市	海老名市	綾瀬市	小田原市
他市実績	1 172,204	1 56,975	2 112,415	3 85,804	6 39,319	2 64,965	1 132,892	2 42,172	1 190,691

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	食育推進計画と健康づくり計画とは、一部重なる部分もあるが、目的が異なる部分もあり、統合には至らない市町村が多いと考えられる。
----------------------	----------------------------------------------------------------

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	内臓脂肪症候群の予防や改善のための適切な食事、運動等を継続して行っているか						単位	%	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)				
食を通した健康づくりの推進ができた割合であるため	目標値	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-				「はい」と答えた人の割合を計上
	実績値	19.8	23.4	22.6	未実施	未実施	未実施				
	達成率	39.6%	46.8%	45.2%	-	-	-				

指標の内容	よく噛んで味わって食べるなどの食べ方に関心があるか						単位	%	指標の傾向	↘	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)				
食を通した健康づくりの推進ができた割合であるため	目標値	80.0	80.0	80.0	80.0	-	-				「はい」と答えた人の割合を計上
	実績値	42.6	67.4	41.7	43.5	未実施	未実施				
	達成率	53.3%	84.3%	52.1%	54.4%	-	-				

指標の内容	食育に関する事業等の参加人数						単位	人	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)				
事業の内容等による参加者数の推移を把握するため	目標値	1,400	1,400	1,400	1,450	1,450	1,450				
	実績値	1,397	1,302	1,399	1,410	1,732					
	達成率	99.8%	93.0%	99.9%	97.2%	119.4%					

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	アンケートによる達成値の変動に法則性がない理由は、毎年アンケート対象者が変わり、経年変化ではないためと考えられる。市民全体への推進がまだ不十分と考えられることから、今後も継続した取組みを行っていく。 食育に関する事業等の参加人数については、開催内容などによって、参加者数の変動があると考えられる。平成30年度は未病センターでの食育啓発が追加になっているため増加した。今後も参加者からの意見・要望等を基に今後の事業内容を検討していく。
-----------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------